

第2期ロジスティクス環境会議
グリーンサプライチェーン推進委員会 第11回源流管理分科会 議事録

I. 日 時：2008年1月30日（水） 16：00～19：00

II. 場 所：東京・港区 （社）日本ロジスティクスシステム協会 会議室

III. 出席者：11名

IV. 内 容：

1) チェックリストについて

V. 開 会

事務局より開会が宣された後、以下のとおり議事がすすめられた。

VI. 議 事

1) チェックリストについて

事務局より資料1に基づき、第10回分科会以降の経過について説明がなされた後、資料2-1、2-2、2-3、2-4に基づき、チェックリストの評価軸項目について検討が行われた。主な意見は以下のとおりである。

【主な意見】

(チェック項目 25)

幹 事：『出来てない』の“取引先はおろか”は、“取引先だけではなく”の方が表現として適切だと考える。

(チェック項目 28)

委 員：“貨物車”よりも“納品車両”の方が分かりやすいと考える。

委 員：本項目は出荷も該当することから、“車両”の方がよいと考える。

委 員：『よく出来ている』を“貨物車を定刻化し”を“車両の接車時間を定刻化し”に修正した方がよいと考える。

(チェック項目 29)

委 員：物流事業者では、荷主に対し“売買契約”の変更といった提案まで行うことはできない。

幹 事：チェック項目を“売買契約（納品条件）”とした方がよいと考える。

(チェック項目 55)

幹 事：チェック項目 52、53、54 以外でも、輸配送計画の見直しによる環境負荷低減につながる施策はあるのではないかと考える。

委 員：チェック項目 55 は、納品条件見直しに絞った内容であり、これはチェック項目 25 から 28 に包含されることから、削除してもよいと考える。

(チェック項目 34)

幹 事：『遅れ気味で努力不足』の“部門単独”では、物流部門だけで取り組む印象を受けることから、“部門単位”の方がよいと考える。

事務局：『出来ていない』の“需要予測の仕組みが機能せず”では、システムを導入しているが機能していないという印象を受けることから、“需要予測の仕組みがなく”に変更してはどうかと考える。

(チェック項目 35)

幹 事：小規模の企業では、EDI 導入率は低いと考えられる。したがって、原案のままでよいのではないかと考える。

(チェック項目 36)

委員：STARラベルはほとんど普及していないことから、“標準輸送ラベル”だけの方が分かりやすいと考える。

委員：ラベルを貼る位置も標準化されていると読み取り等が効率的となるが、本項目には含めなくてよいと考える。

(チェック項目 37)

幹事：一貫パレチゼーションの数字があるが、実体と乖離している印象を受ける。

幹事：ユニットロードの中身として、コンテナ、パレット、通い箱それぞれ考えられる。

事務局：客観的な数字はないことから、原案どおり1項目でよいと考える。また、通い箱の使用に関しては、チェック項目46が該当する。

(チェック項目 38)

幹事：共同輸配送の定義や範囲を厳密に考えると、項目をそのままにしておくべきか悩ましい。

事務局：チェック項目では“輸配送回数”となっているが、“輸配送車両”の方がふさわしいと考える。

(チェック項目 81)

委員：フロンを使用する以前はアンモニアを冷媒として使用していたこと、HFCは温室効果ガスであることから、“ノンフロンを冷媒として”の方がふさわしいと考える。

幹事：実態に即している“代替フロンや自然冷媒”のチェック項目の方がよいと考える。

(チェック項目 (82))

幹事：外気の遮断だけではなく、省エネ型の照明の設置等も含めた内容にしてはどうか。

事務局：チェック項目79に省エネ型の照明に関する項目がある。

委員：『まずまず出来ている』は“エアカーテンやドッグシェルター”とした方がよいと考える。

幹事：『よく出来ている』の“半数以上”はレベルとして低い印象を持つ。“積極的に取り組んでいる”といった内容に変更してはどうか。

幹事：チェック項目77をチェック項目80の後ろに変更し、冷凍関係の項目をそろえた方がよいと考える。

(チェック項目 (83))

事務局：『遅れ気味で努力不足』の“倉庫業者と相談し”は“荷主と物流事業者で連携し”に修正したい。

(チェック項目 83)

委員：物流事業者側では難しい内容であり、現実的にはチェック項目84の施策を実施することになるのではないかと考える。

幹事：チェック項目84は、処分せざるをえない在庫の処理による保管スペースのコンパクト化であり、チェック項目83とは異なる内容と考える。

幹事：生産、営業部門と連携し、波動対応、商品の組み合わせ等の工夫といった、プランニング部分での対応を促す項目としてはどうか。

委員：『遅れ気味で努力不足』『まずまず出来ている』の“あるいは荷主”は不要ではないかと考える。

(チェック項目 73)

幹事：『まずまず出来ている』の“効果が出始めている”は、“実施している”に変更したほうがよいと考える。

(チェック項目 56)

幹事：『出来ていない』は“計画的な活動は実施していない”、『よく出来ている』は“求貨求車システムへの登録や荷主への働きかけ等”に変更してはどうか。

幹事：チェック項目を“帰り荷の確保のための工夫（求貨求車システムの導入等）をしている”としてはどうかと考える。

(チェック項目 51)

委員：海上コンテナを対象に素案が策定されているが、鉄道コンテナ等も考えられるのではないかと考える。

委員：規制に適合したコンテナを荷主に提供することは、船会社の義務であり、荷主等が勘案することではないと考えられることから、項目として削除してもいいのではないか。

事務局：ご指摘のとおりである。また、中分類の“包装の見直し”の全体を見ると、本項目だけ性質が異なることから、削除したい。

(チェック項目 31)

委員：本チェック項目の“環境負荷”は、地球環境問題、地域環境問題のどちらをイメージしているか教えていただきたい。

幹事：本チェック項目では、地球環境問題である。

委員：コストの検討をすることで、必然的に輸送距離短縮による環境負荷低減につながっていると考える。

事務局：トラック輸送だけで考えればご指摘のとおりだが、鉄道や船舶利用を踏まえた拠点配置検討といったことも想定される。

幹事：評価軸の項目を考えると、“環境負荷を考慮に入れた拠点配置を進めている”の方がふさわしいと考える。

(新規項目「行政による支援策の活用」)

幹事：資料 2-4 の事務局案では、支援策の把握の度合いだけが評価軸となっている。活用の度合いを加味した内容に変更すべきと考える。

(今後の進め方について)

幹事：本日の検討で、全ての項目が決定したが、一部修正した方がよい表現等があると思うことので、次回会合で検討したい。

事務局：本日の検討を受けてリバイスしたチェックリストをメール送付するので、ご確認いただきたい。

幹事：同じ設問であっても、荷主と物流事業者で捉え方が異なるケースが出てくるのではないか。

幹事：評価軸の他に“該当しない”という選択肢を設けることで対応してはどうかと考える。

【決定事項】

- ・チェック項目 25-29、34-39、56、73、81、83 の評価軸が確定した。
- ・チェック項目 51、55 を削除する。
- ・チェック項目 82 を、(82) (83) の 2 項目に変更する。
- ・行政の支援策に関する項目を策定し、チェック項目 18 と 19 の間に入れる。
- ・チェック項目 77 を 80 の後ろに移動する。
- ・上記修正を加えたチェックリストをメール送付するので、ご確認いただき、修正意見等あれば次回会合前までに意見をいただくこととする。

2) アウトプットについて

事務局より、別紙に基づき、第 3 回本会議でのアウトプット（案）について説明がなされ、次回会合までに内容を確認いただくこととなった。

3) 今後の進め方について

第 12 回分科会については以下のとおりで開催することとなった。

日時：2008 年 2 月 21 日（木） 16 時-18 時

会場：JILS 小会議室

詳細については、別途事務局から連絡することとなった。

VII. 閉会

以上をもって全ての議事を終了した。

以上